

英語を楽しく

No.196

☆日本人が間違いやすい英語-1

学校で学んだ英語をそのまま職場で使うと、その場面にふさわしくない表現のときもあります。

① 「～してください。」は、Please でいつもいいの？

please は「命令形+やや丁寧に言った」程度のニュアンスしかありません。話し手に敬意を示す時は、Could (Would) you please を使って、例えば、

「楽器を運ぶのを手伝ってくださいませんか。」を

Could (Would) you please help me to carry several instruments?

のように言えたら完璧。(Please～.でも、感謝する気持ちを十分込めると大丈夫)

② “OK” という言葉をよく使うけれど…。

学年7人で指導案の検討中、だれも何も言わないので、最年配のA先生が、助け船をだすつもりで、

“Can I share my idea with you?”

(考えがあるのだけど、話していいかな?) と言われた。

それに対して、指導案を書いたCさんが「おねがいします。」のつもりで、

“That's OK.”

の返事。それを聞いて、みんなの顔がひきつった。そのわけは。

Can I share my idea with you?



「日本語でOKは「よい、正解、それでうまくいく」などの意味ですが、「OK」の言葉は本来「まあまあ、大丈夫」、特によいわけでもない、という意味です。

そこで、Cさんの言ったこのたびの

“That's OK.” はA先輩の

“Can I share my idea with you?”

に対して、

「結構です。」と断った意味の文となります。Cさんは、先輩の言葉に対して

“I'd love to hear it.” (ぜひお願いします。) とか、それとも、

“Yes, please.”

(はい、お願いします。) と言うべきでしたね。

I should have told
I should



Cさん、落ち込まないで頑張ってください。だれにでもあるまちがいです。

《注》 「OK」の本来の意味を日本では理解されていないようです。